

令和5年度 学力向上計画・報告書

板倉町立東小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
							重点時期
1	教育課程編成上の工夫	教務主任	全学年	カリキュラムマネジメントの実現に向けて、「水曜夜時」として行事を行う時間を主み出したり、鼓笛、プール、汚入走などの特別時間割を作成したりするなど学習時間を確保する工夫を行う。	全期間		
2	教育等の年間配当時間の工夫	教務主任 各教科主任	全学年	年間指導計画の改善、各教科と行事との関連等を教科横断的な視点で改善を行う。	年度当初		
3	スキルアップタイムの設定	教務主任 研修主任	全学年	水曜日以外の給食後10分間を担任が学習指導に活用できる時間として設定し、児童の実態に合わせた学習時間として全校で取り組む。	全期間		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担当制の導入	教務主任	3～6年	教科担当制を行うことで、専門的な授業や教材研究を充実させ、児童に還元できるようにする。	全期間		
2	かがやきチーム・やさしさチームの編成	校長	全職員	職員を学力向上(かがやきチーム)と生徒指導・教育相談(やさしさチーム)に分け、小部会を開いて決定していく仕組みを作る。	全期間		
3	通級指導の充実	通級指導担当	全学年	個別指導が必要な児童に対して、担任が保護者と相談し合意のもとで、授業から取り出して学力に合わせた学習をさせる。	全期間		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	個と全体を組み合わせさせた校内研修	研修主任	全学年	教員が研修主題に沿って、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを行う。その工夫点を週予定に記録して貯め、定期的に校長がチェックする。学期末に各ブロックで指導の工夫点を話し合い、参考にして改善を目指す。	全期間		
2	一人一授業の実践	研修主任	全学年	研修の主題に沿って一人一授業を行い、教員同士で参観し、はばブラⅡの授業構成を基本とし、GIGAスクール構想にも対応できる指導力の向上を図る。	10月～ 12月		
3	メンター研修の充実	資質向上主任	全学年	フレッシュメンター(若手教員対象)と拡大メンター(教員対象)を上手に組み合わせ、困り感や悩みを共有しながら、教員のチームワークで解決していく研修の機会を設定する。	全期間		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の結果分析	教頭	全職員	全職員が担当を分担し、全国平均と比較して分析することで、本校の課題を抽出する。	夏休み 後半		
2	改善策を基にした全校での具体的な指導実践	学力コーディネーター	全学年	結果分析を受け、かがやきチームで改善策を考え、さらに今後の具体的な指導の取り組みを決める。全校に周知し同一歩調で指導実践していく。	夏休み～ 9月初め		
3	アンケートによる成果の調査	学力コーディネーター	全学年	2・3学期に同一歩調で指導実践し、取り組んだ結果を3学期に教員にアンケートし、結果を分析する。必要に応じて次年度に継続指導するかを判断する。	2月後半		
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	「東小よいきのまじり」の作成、配付、周知	生徒指導主任	全学年 就学前	東小学校で生活する上でのルール「東小よいきのまじり」を作成し、入学説明会で配付する。4月初めの職員会議で全職員に、学級開きまで各担任から児童に周知し、同一歩調で指導できるようにする。	4月初め		
2	タブレット端末の活用、家庭学習カード・テストファイルの活用	学力コーディネーター	全学年	タブレット端末を活用した家庭学習を推進する。また、ブロック等に統一した家庭学習カードとテストを綴るファイルを作成し、家庭学習とテストの結果を確認してもらい、サイン(押印)をしてもらう。	全期間		
3	PTA活動・保護者ボランティアによる支援	教務主任	全校	各部会の活動や読み聞かせなど、児童の教育環境を支援してもらう。保護者ボランティアを募集し、指導の専門性や教育活動の安全性を高める。	全期間		

令和5年度 学力向上計画・報告書

板倉町立西小学校

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実						
No.	主な取組	主担当	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て
1	読書の充実	図書事務 各担任	全学年	児童が本に親しむ時間を確保する。読書週間を身に付け、読解力を向上させるために毎月「よむよむ日記」を実施する。	毎月	
2	NIEの実践	国語主任 各担任	全学年	新聞を教材として活用し、情報に触れ、社会の出来事に関心を持ち、その出来事に対して自分なりの考えを持つ場を授業内に設定する。	適宜	
3	学級活動の充実	各担任 校長	全学年	人の話をしっかり聞き、自分の意見をまとめたり、深めたりしながら自分の考えをしっかりと伝える力を育成するために、議長団を中心とした学級活動を実施する。	適宜	
取組Ⅱ 指導体制の工夫						
1	ちりつもタイム (帯学習時間の設定)	各担任	全学年	給食後、清掃前の10分間を基礎・基本的な学習内容の定着を図るための学習時間として設定。漢字・計算の自学自習並びに低位の児童への補充学習を行う。	通年	
2						
3						
取組Ⅲ 指導力の向上						
1	校内研修の充実	全職員	全学年	研修テーマにあった授業実践を日々積み重ねた上で、全教員による一人一授業を行う。一人一授業については、相互に授業を見合わせるように計画を立てる。授業研究会では、授業改善の視点をもとに、手立ての有効性などについて協議しながら、授業の成果と課題を明確にし、授業改善を図る。	通年	
2	ベテランも若手ともに 学べる資質向上研修	全職員	全学年	研修副主任を中心とした、ベテランも若手ともに学べる校内のOJTを活用した資質向上研修を計画的に推進する。	夏季休業 中を中心 に	
3						
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用						
1	全国学力・学習状況調査 の分析	全職員	6年	全国学力・学習状況調査の問題を分析し、育成すべき資質・能力を再確認し授業実践に活かす。	夏季休業 中	
2						
3						
取組Ⅴ 家庭・地域との連携						
1	学力向上だより発行	学力向上C	全学年	毎月、学力向上だよりを発行する。学力向上に向けた学校での取組や家庭での自主学習の方法を紹介する。	毎月	
2	家庭学習がんばりウィーク の設定	各担任 学力向上C	全学年	毎月、第1週を家庭学習がんばりウィークと設定し、家庭での学習について記録し、振り返る機会を設ける。記録用紙に家庭学習の手引を掲載することで、保護者への啓発を行う。	毎月第1 週	
3						

令和5年度 学力向上計画・報告書

板倉町立板倉中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当当事者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	学習課題を明確にした授業構想	研究推進委員	全学年	○はばブラⅡやはばブラⅡICT活用Verに基づく授業実践と、学びの意欲を高める「めあて」「まとめ」「振り返り」の工夫をする。	通年		
2	自己研修課題に基づいた指導の工夫	校内研修主任	全学年	○自己の課題解決に向けて思考・判断・表現する生徒を育成するために、単元目標を提示することで見通しをもたせるようにしたり、手立てを明確にしたりするなどの授業改善を行う。	6月～11月		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科部会やメンター研修の活用	メンター主任 教務主任	全学年	○教科部会や、メンター研修を活用し、指導と評価の一体化を目指した単元構想や、指導方法・評価方法の工夫などの指導体制づくりの共有化を行う。	通年		
2	基礎を伸ばす朝学習への取組	各学年	全学年	○全学年で、基礎を伸ばし、学習習慣の確立に向けた朝学習への取組をする。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	教科部会の定期的な開催	各教科主任	全学年	○「授業づくりの視点」を明確にした定期的な授業公開や授業研究会を実施する。	通年		
2	資質向上研修を生かした指導力の向上の取組	校内研修主任	全学年	○資質向上研修を活用し、多面的・多角的な生徒理解に基づく指導や、一人一人の教育的ニーズに応じた取組からの指導の工夫を行う。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○実施学年の教職員だけでなく、全国学力・学習状況調査の分析結果を全職員で共有し、本校の課題を把握する。	夏休み		
2	NRTテストの成果及び課題分析	学力向上C各教科主任	全学年	○NRTテストの成果及び課題を分析し、各教科全体で共有し、課題を活かした教科指導につなげる。	夏休み		
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	自主学習方法の提示・改善	学力向上コーディネーター	全学年	確かな学力の基盤となる学習習慣・生活習慣の定着(凡事徹底)に向け、具体的な学習の仕方を調べて発表する等の活動を通して、生徒自らが意識的に自主学習を行えるようにする。	5月～		
2	家庭での学習習慣の定着	学力向上委員会	全学年	定期テストに向けた家庭学習計画表の作成・実施を行う。向上のため、スタディサブリの到達度テストやキュービナの活用などICTの活用も推進する。	6月～		

令和5年度 学力向上計画・報告書

明和町立明和東小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	伝え合う活動を行うことで学びを深める授業改善	授業者	1～6年	・授業を構想するときに、本時のねらい・まとめ・振り返りの場面を設定し、タブレットを活用して、伝え合う活動を充実させる。	通年		
2	読み書き・計算コンテストの実施	学力向上コーディネーター	1～6年	・学期ごとに学習した内容を振り返り、基礎的な学力を定着させる。	9・1		
3	CRT学力調査	学力向上コーディネーター	1～6年	・朝行事の習熟の時間に活用問題を実施する。 ・実施結果を分析し、全職員で共通理解する。	1・2		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	少人数指導	授業者	1～6年	・個に応じたきめ細かな指導の工夫と実践を行う。 ・習熟度別少人数指導やTT指導。	通年		
2	補習体制の確立	町支援員	1～6年	・町支援員による学習支援体制を確立し、実践する。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	一人一授業の実施	研修主任	1～6年	・研究授業・発表授業を中心とした一人一授業を実践し、授業後に研究会を行って振り返り、授業改善につなげる。	10・11		
2	校内研修の活性化	研修主任	1～6年	・全教職員で研究の方向性を確認し、必要感に応じた資質向上研修を計画して行う。	通年		
3	ICTを活用した授業実践	授業者	1～6年	・ICTを有効活用して、確かな学力を育成する。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題を分析する	学力向上コーディネーター	1～6年	・全国学力・学習状況調査の結果を、授業者を中心に分析し、全教職員で共通理解を図る。	9		
2	全国学力・学習状況調査の対策をする。	学力向上コーディネーター	1～6年	・分析した結果をもとに、朝行事の習熟の時間に、学年に応じた活用問題を実施する。	3・4		
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	家庭学習の手引き	学力向上コーディネーター	1～6年	・具体的な学習内容や目標の学習時間を提示し、家庭学習におけるルールの共通理解を図る。	4		
2	家庭学習調査	学力向上コーディネーター	2～6年	・学期ごとに10日間、家庭学習を記録する期間を設け、家庭学習の取り組み状況を学校と家庭で把握し、家庭への協力を依頼する。	6・10・2		
3	自主勉コンテスト	学力向上コーディネーター	3～6年	・児童が目標を立て振り返りができる自主勉ノートづくりを推進し、賞を設定し、賞状を授与して激励し、次の意欲へとつなげる。	通年		
4	学校評価	教務主任	1～6年	・年に2回学校評価のアンケートを実施し、結果を分析して、自己評価・改善策を公表し、それを生かして実践していく。	7・12		

令和5年度 学力向上計画・報告書

明和町立明和西小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	週1作文の実施	学級担任	全学年	週末にテーマを決めて作文(高学年で200字)を宿題にする。児童同士でタブレットを使って作文を読み合うことで書くこと、読むことに慣れさせる。テーマは国語の指導計画に準じた物とし、年に数回は「子ども新聞」の記事を読んで要約したり意見感想を書いたりする機会を設ける。	通年		
2	全校でテストを統一、EXテストの導入	学級担任	全学年	全校でEXテストを国語、算数で実施することにより、応用問題、思考力の問われる問題に慣れさせる。夏休みにはEXテストを効果的に活用するための校内研修を行い、学力の向上を目指す。	通年		
3	国語算数大会の実施	学級担任	全学年	各学期末にまとめとしてテストを行う。国語は漢字の読み書きと言葉の問題、算数は計算問題、文章問題、図形問題など既習内容を幅広く取り扱う。後述のチャレンジアップ週間と連動させて、学習内容の定着を図る。	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	高学年における教科担任制の実施	高学年担任	5,6年	教科担任制を実施し、専門性を生かした質の高い授業、教材研究の充実や負担軽減を図る。それにより児童の学力向上や、複数教員の目による生徒指導の充実を期待する。	通年		
2	道徳の学年ローテーション授業の実施	学級担任	3年以上	教材研究の充実や負担軽減を図る。それにより児童の理解を深め、複数教員の目による生徒指導の充実を期待する。	通年		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	学力向上CNによる若手教員への授業参観	学力向上		学力向上が経験年数10年以下の教員を対象に、指導案不要の参観授業を行う。観点は「はばブラを実践できているか」である。授業は他の教員にも公開し、授業当日に研究会を簡単に行う。	1, 2学期		
2	メンター研修	学力向上		若手の教員でメンターチームを結成する。持ち回りでリーダーとなり、日頃の悩みやアイデアをテーマとして話し合い、指導力の向上につなげる。	通年		
3							
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料を活用し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	夏休み		
2	CRTの成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	CRTの結果を分析し、児童生徒の学力向上を図ると共に教員の授業改善のポイントを検討する。	2～3月		
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	チャレンジアップ週間	学力向上コーディネーター	全学年	学期に一度の国語算数大会前に10日間の「チャレンジアップ週間」を設ける。家庭学習強化週間として、学習時間を記録する。開始前に学活の時間などを使って、学習計画を自分で考えさせる。	通年		
2	読み聞かせ	教養部 読み聞かせボランティア	全学年	教養部の保護者が選んだ本を、朝の時間ボランティアの方に読み聞かせに来てもらう。本に触れるきっかけを作り、読書に親しめるようにする。	通年		
3							

令和5年度 学力向上計画・報告書

明和町立明和中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	特別活動の見直し	研修担当	全学年	・学校における個々の学習が、それぞれのキャリア形成にどのようにつながるのか、またなぜ学ぶのかを意識して授業に取り組めるよう、授業での学びを実世界で活用できるようにする。また、学活の時間を通してキャリア教育を充実させる。	通年		
2							
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	自主学習の充実	研修担当	全学年	○定期テスト前に主体的に学習に取り組めるよう、テストの内容に合わせた自主学習プリントを廊下に設置する。	定期テスト毎		
2	ローテーション道德の実施	道德主任	全学年	○子供たちが多くの先生方の考えに触れ、深い学びを得られるよう、ローテーション道德や学年道德を取り入れる。	通年		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	生徒の変容を見取る	全職員	全学年	○生徒の実態を把握し授業改善を行うために、1学期末と2学期末に生徒を対象に学習に対するアンケートを実施する。	通年		
2	ICT活用の研修	学力向上コーディネーター	全学年	○授業での有効的なICT活用方を身に付けるために、はばプラⅡ-ICT活用ver.-を参考に、各教科でITCを授業で有効的に活用する方法を職員間で共有する。	1学期		
3	めあての提示の工夫	全職員	全学年	○主体的に学習に取り組めるよう、生徒の考えを生かしためあての設定を行う。また、次時の授業に興味関心をもたせるために、めあてに対して一貫性のあるまとめを行う。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○明和中の課題を把握し、改善策に取り組むために、実施学年だけではなく全学年の職員で結果分析を行う。	2学期		
2							
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	家庭学習の充実	全職員	全学年	○家庭学習の充実を図るために、Classroomなどに問題を掲載し学習に取り組みやすい環境を整備するなど、ICTを有効的に活用する。	通年		
2	クラスルームを用いた情報提供	全職員	全学年	○学校での生活の様子や、生徒の学習の様子を家庭と情報共有するために、学年懇談会や随時各家庭において、生徒のタブレットから情報を発信する。	通年		
3							

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

令和5年度 学力向上計画・報告書

千代田町立東小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	年間指導計画の見直し	教務主任	全学年	○STEAM教育の視点を取り入れられる探究課題を設定したり、学習活動を年間指導計画に位置付けたりするとともに、単元配列表の修正を行う。※総合的な学習の時間	夏休み		
2	教育活動全般にNIEを取り入れる	学力向上コーディネーター	全学年	○NIEについて理解を深めるとともに、新聞を活用した実践を積み重ね、共有していく。また、新聞に親しめる校内環境づくりを行う。	通年		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	交換授業による教科担当制の充実	教務主任	全学年	○教員免許や教科主任等から、より専門性の高い教員による指導を実現させる。複数学年を担当することで系統性を意識させる。	4月		
2	マイタウンティーチャーによる算数科のTT指導	教務主任	3・5年 中心	○3・5年の算数の授業に、マイタウンティーチャーをT2として配置し、一人も取り残さない指導の実現を図る。	4月		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	CRT実施と分析の活用	学力向上コーディネーター	全学年	○前年度の領域ごとの課題を読み取り、本年度の指導に生かすようにする。 ○CRTの問題から未実施の学習単元がないか確認する。 ○結果の分析では、領域別集計結果の全国比と学年得点率の割合を比較し、各教科の課題となる事項と次年度の指導に生かす事項をまとめる。	6,2月		
2	一人一授業以上の授業公開	研修主任	県費職員	○研修主題に基づいた授業の計画・実践（公開）・参観・振り返りを行う。1回以上の公開と3回以上の実践を設定する。	9月		
3	資質向上研修の充実	研修主任	全職員	○職員一人一人にアンケートを取り、本校にとって必要感のある資質向上研修に努める。	夏休み		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	6月		
2							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	家庭学習（宿題や自主勉強）の進め方と記録方法	学力向上コーディネーター	全学年	○「毎日の家庭学習」を配付し、家庭学習の進め方を提示する。 ○各学期ごとにチャレンジワークを設定し、自主勉強記録表を付けさせることで、家庭学習の習慣化を図る。	4月		
2	読書時間の確保	情報主任 図書主任	全学年	○各学期に設定したチャレンジワーク内に各学級でノーメディアデイを設定し、家庭学習で読書するきっかけをつくる。 ○夏休みの宿題に「親子読書」を出し、読書時間の確保をしていく。	6,11,2月 夏休み		
3	学校評価を活用した学力の向上	教務主任	県費職員	○年2回行う学校評価の結果から、本校の課題と改善策を各家庭に周知する。	7月、2月		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

令和5年度 学力向上計画・報告書

千代田町立西小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	NIEの取り組み	NIE担当	全学年	○NIEタイムを計画的に実施し、リーディングスキルを生かした読み取りの力を伸ばす。	通年		
2	CRTの実施と分析	学力向上コーディネーター	全学年	○対策授業を実施し、結果の分析では、領域別集計結果の全国比と学年得点率の割合を比較し、各教科の課題と手立てをまとめる。	2月		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の共通理解と共通実践	学力向上コーディネーター	全学年	○学習スタンダードを全校で共有し、学習に取り組みやすい環境を整える。学校評価や教師の見取りから成果と課題を検証する。	通年		
2	教科担当制や交換授業による指導の充実	教務主任	全学年	○より専門性の高い教員による指導を実現させる。	4月		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	校内研修の活性化	研修主任	全学年	○研修主題に基づいた一人一授業の実施（公開）を行う。 ○教師の必要感や困り感に応じた資質向上研修に努める。	2学期		
2	CRT分析の活用	学力向上コーディネーター	全学年	○前年度の課題を本年度の指導に生かすようにする。	6月		
3							
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○全教員で取り組み、本校の課題を把握する。 ○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。	8月		
2	全国学力・学習状況調査の対策	学力向上コーディネーター	5・6年	○5・6年の児童対象に、町教育委員会と連携しながら対策授業を行う。	3・4月		
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	「毎日の家庭学習」配付	学力向上コーディネーター	全学年	○学年ごとに家庭学習の具体的な学習内容例を提示する。	4月		
2	チャレンジウィーク設定	学力向上コーディネーター	全学年	○中学校の定期テスト期間に合わせて、2週間の家庭学習強化週間を設け、家庭への協力依頼、家庭学習取組状況の把握をする。	8・11・2月		
3	学校評価	教務主任	全学年	○学校評価の結果から、各取組の改善を図り、特色ある教育課程を編成していく。見直した取り組み等を各家庭に周知し、学校と家庭の協働体制を築く。	6・11月		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

令和5年度 学力向上計画・報告書

千代田町立千代田中学校

(進捗状況の報告)

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)	
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実					後期訪問時の状況と今後の手立て	
No.	主な取組	担当	学年等	具体的な内容	重点時期	重点時期
1	学級活動の充実	特活主任	全学年	○安心して学べる環境づくりのために、「学習規律」や「よりよい授業の受け方」などのテーマについて考えたり話合ったりする活動を設定する。 ○学級の状態を把握するためにQIを年間2回実施し、指導に生かす。	5月 12月	
2	学びを深めるための年間指導計画の作成	教務主任	全学年	○生徒の学びが深まるよう年間指導計画の作成や見直しを行う。	年度当初	
3	読解力向上	国語主任	全学年	○週1回、朝に読解力向上のための学習を実施する。 ○全教科において、生徒に読解スキルを意識させる。	通年	
4	情報活用能力向上	教育の情報化主任	全学年	○週に1回程度、タイピング練習を実施する。	通年	
取組Ⅱ 指導体制の工夫						
1	教科担任制・学習形態の工夫	教科担当	全学年	○「数学」では、数学担当教諭2名が習熟度別少数指導を行う。 ○「英語」では、英語担当教諭1名、ALT、町職1名のITを行う。	年度当初	
取組Ⅲ 指導力の向上						
1	校内研修の充実	研修主任	全学年	○職員の指導に対する困り感を把握し、実態に応じた【研修計画】を行う。 ○1人1授業の【授業公開・授業研究会】を行う。 ○学力向上につながる授業実践を掲載した【研修通信】を発行する。	通年	
2	メンター研修の実施	メンター	全学年	○月に1度、主に教職6年目以下の教員を対象に、授業、学級経営、生徒指導、不登校支援などについての研修を行う。	通年	
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用						
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。 ○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	夏休み	
取組Ⅴ 家庭・地域との連携						
1	授業とリンクした家庭学習の充実	学力向上コーディネーター	全学年	○家庭学習方針を立案し、4月の学年・学級懇談会や5月の二者面談を通して、家庭に家庭学習の進め方を周知する。 ○国語・数学・英語は毎日20分程度、社会・理科は週1回以上家庭学習課題を出す。 ○年度初めの各授業でのガイダンスで、家庭学習の方法について、生徒の紹介する。	4月	

令和5年度 学力向上計画・報告書

大泉町立南小学校

(年度当初の計画)

(進捗状況の報告)

取組Ⅰ 教育課程の改善・充実				後期訪問時の状況と今後の手立て		
No.	主な取組	担当	学年等	具体的な内容	重点時期	重点時期
1	教育課程編成上の工夫	教務主任	全学年	○教科等の年間配当時間の工夫・校時表の見直しをする。 ○学校評価を行い、児童の変容に基づく評価・改善をする。	年度当初 学期末	
2	読書時間の確保	図書担当	全学年	○読書に親しみ、言葉の力をつけることができるよう、朝読書や読み聞かせの機会を設定する。 ○様々な本に触れる機会を増やし、手の届くところにいつでも本がある環境をつくれるよう、群馬県立図書館より朝読書用の本を年間を通して借用する。	通年	
取組Ⅱ 指導体制の工夫						
1	高学年における教科担当制・担任によるT.Tの実施	教務主任 教科担任	4～6年	○個に応じた指導ができるよう、第6学年の算数においてT.Tを実施する。 ○教科担当であっても児童の多面的な理解ができるよう、担任がT2として指導に入る時間を設ける。	通年	
2	「南小のきまり」の共有	生徒指導 学力向上	全学年	○落ち着いた学習に向かう環境をつくることのできるよう、「南小のきまり」を全職員で共有し、保護者・児童にも周知する。 ○児童の実態に合った枠組みの中で指導を行えるよう、生徒指導委員会・学力向上委員会の中で適宜見直し・改善を行っていく。	年度当初	
3	校内学力向上委員会の設置・実施	管理職 学年主任 学力向上	全学年	○家庭と連携して学習習慣をつけていくことができるよう、「がんばり週間」の内容や「学習の手引き」について見直し・修正を図っていく。	通年	
取組Ⅲ 指導力の向上						
1	ICTを活用した授業改善	研修主任	全学年	○主体的に学び、自分の考えを表現できる児童を育成できるよう、学習用具としてICTを効果的に活用し、授業改善を行っていく。	通年	
2	資質向上研修・若手教諭育成のためのメンター研修の実施	研修主任 メンター主任	全学年	○職員の指導力を向上していき、学校の実態に応じて学んでいけるよう、各職員の困り感に即した研修を行っていく。 ○若手職員の悩みや困り感を共有し解消していけるよう、必要に応じてメンター（講師）を立てるなどしてメンター研修を充実させる。	通年	
3	一人一授業の実施	研修主任	全学年	○研修主題に即した課題を意識し、見直しをもって授業改善ができるよう、2学期の指導主事訪問での課題を活かして校内授業公開を行う。 ○互いに刺激し合い、高めあう雰囲気を作成できるよう、職員間で授業を参観しあえるようにする。	11～12月	
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用						
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上	全学年	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。 ○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	夏休み	
取組Ⅴ 家庭・地域との連携						
1	家庭学習がんばり週間の実施	学力向上	全学年	○学習意欲を高められるよう、学期末のテスト前に「がんばり週間」を設け、家庭学習の定着を図っていく。	学期末	
2	PTA学力向上推進委員会との連携	教務主任 学力向上	全学年	○家庭と連携して学力の向上を目指していけるよう、PTA学力向上委員会との連携を図る。 ○家庭と連携して、児童が前向きに学習に取り組んでいけるよう、「子ども達の学力向上に向けての提言」を作成し、周知する。	4月	
3	各家庭への「学習の手引き」の周知	学力向上	全学年	○家庭学習の習慣を親子で丸ごとつけていけるよう、「がんばり週間」に合わせて「家庭学習の手引き」を作成・配布する。	7月	

5

令和5年度 学力向上計画・報告書

大泉町立北小学校

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実						
No.	主な取組	主担当	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て
1	日々の授業の充実を図る	授業者	全学年	①「できた、わかった」などの小さな感動を大切に授業づくりをすること。②子どもの言葉で1時間ごとの「明確なめあての掲示」をすること。③教員同士の積極的な授業参観をすること。この①～③の日々の授業の充実を図る手立てを通して、学校評価アンケート結果で取組状況を把握し、改善策等を検討する。	年度当初	
2						
取組Ⅱ 指導体制の工夫						
1	学習規律の共通理解と共通実践	研修主任、全職員	全学年	○授業の「けしき(けじめ・しせい・きく)」などの学習のルールを明確化し、全校で取り組む。また、できている職員の授業を実際に見に行ったり、動画をとって校内研修で見合ったりして、教師同士が協働し、課題解決を図る。	年度当初 通年	
2						
取組Ⅲ 指導力の向上						
1	単元計画の作成	研修主任、全職員	全学年	○「単元構想シート」を作成し、単元の課題、資質・能力が身に付いた単元末の児童の姿を意識した授業づくりとPDCAに基づく検証を行う。	夏休み 通年	
2						
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用						
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	全職員、学力向上コーディネーター	全学年	○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査問題を解き、授業改善の視点を協議し共通理解を図る。	4月、夏休み	
2						
取組Ⅴ 家庭・地域との連携						
1	家庭学習の工夫改善	全職員、学力向上コーディネーター	全学年	○保護者面談時に「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の充実に向けて、保護者へ説明・啓発する。毎学期末、「カンガルー週間」という家庭学習強化週間を設け、家庭と連携をし、担任は児童の取組を評価し、励ましながら家庭学習を充実させていく。	学期末	
2	読書時間の確保	図書主任、全職員	全学年	○常時借りた本の持ち帰りを促し、自主学習や家庭学習で読書感想文を書くことで、読書をするきっかけをつくる。2学期には、児童が楽しみながら、幅広い書籍を読むきっかけづくりとなる活動を行う。(「よみんご」というビンゴを使った活動) また、学校評価アンケート結果で取組状況を把握する。	通年	

令和5年度 学力向上計画・報告書

大泉町立西小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	教科等部会で意見交流する	教務主任	全学年	○教科等部会を開き、学年を越えた指導の充実を図る。	4月 夏休み		
2	各単元の評価についての確認	教務主任	全学年	○来年度の教科書改定に向けて、今年度の各単元における評価の仕方を再確認することで、スムーズな次年度への移行を目指す。	通年		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	ユニバーサルデザインを意識した掲示物の精選・西小学習合い言葉を徹底した学習規律の確立	各担任	全学年	○教室掲示の際に、前面の掲示を極力控え、授業に集中できる環境整備をする。また、学習合い言葉を全学年共通理解し、机上の整理(えんぴつセット)やあいさつの統一(語先後礼)を意識させ落ち着いて学習に取り組めるようにする。	4月		
2	道徳科ローテーション授業の導入	各担任	全学年	○担任だけが授業するのではなく、様々な先生から教わるようにローテーションで授業をする。	通年		
3	高学年の教科担任制	高学年担当	高学年	○高学年の複数科目の教科担任制を導入することで、学年全体による授業改善・指導体制の充実を図る。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	実態に応じた授業参観	研修主任	全学年	○一人一授業や学校計画訪問前の見合いを通して、指導力向上を図る。また、初年者・2年目研修中での授業公開も参観することで学ぶ機会を増やしていく。	通年		
2	ICT活用	情報主任	全学年	○学期ごとに、学習単元の課題をスタディサプリを利用して提出させることで、長期休業中に児童の学力定着を把握し、次学期の指導にいかしていく。	通年		
3	校内教員を講師にした短時間研修	研修主任	全学年	○全体研修の中で、校内の教員の専門性や特技を生かし、講師として研修を行うことで、教員指導力向上を目指していく。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○S-P表を活用した分析をし、児童の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。また、質問紙の分析を丁寧にし、指導にいかしていく。	通年		
2							
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	家庭学習週間の実施	学力向上コーディネーター	全学年	○家庭との連携を目指し、家庭学習週間の学習、生活の見直しを提案・実施・アンケートを実施することで、家庭学習の定着を図り、基礎学力の定着を目指す。	通年		
2							
3							

令和5年度 学力向上計画・報告書

大泉町立東小学校

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	教育課程編成上の工夫	教務主任	全学年	朝学習、朝読書、読み聞かせを計画的に行い、学習時間の調整を各学年の状況に応じて行う。	全期間		
2	各学年の実態に応じた学習内容の精選	学力向上コーディネーター	全学年	朝学習や関連のある授業等を利用して、基礎基本の定着や活用力の向上を図る。県評価資料集等も活用し、学習を進めていく。	全期間		
3	教育等の年間配当時間の工夫	教務主任	全学年	学期ごとに行事との関連、教科横断的な視点で改善を行う。	年度当初		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担当制	全学年	全学年	教科担当制を行うことで、より専門的な授業や教材研究の充実が行えるようにする。	全期間		
2	「東小スタンダード」の確認・掲示・配付	生徒指導部	全学年	東小スタンダードを全校で共有し、学習に取り組みやすい環境を整える。	年度当初		
3	道徳科ローテーション授業の導入	各担任、専科	全学年	各学年の実態に応じて、担任と所属学年の専科の先生で道徳授業のローテーションをおこなう。必要に応じて、授業を参観したり、授業の検討をおこなう。	全期間		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	一人一授業の実践	研修主任	全学年	一人一授業を行い、教員同士で参観し、指導力の向上を図る。	10月～11月頃		
2	資質向上研修会	研修主任	全学年	緊急性や必要性に応じて評価方法や特別活動等の研修を行う。	全期間		
3	メンター研修	メンター担当	全学年	メンター担当を決定し、担当を中心に一人一人の悩みや苦手な分野を共有し、教員全体で解決していく。	全期間		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査結果の分析	学力向上コーディネーター	全学年	全国平均と比べ、課題だと思われる問題を選び、各学年の発達段階で取り組める改善策を考える。	夏休み		
2	分析結果のフィードバック	学力向上コーディネーター	全学年	分析結果を基に県評価資料集等を使い、確認を行う。	3学期		
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	「東小・家庭学習のススメ」の配付	学力向上コーディネーター	全学年	P T A と連携し、家庭学習のススメ（保護者向け）を発行する。	夏休み前		
2	家庭学習チャレンジ週間	学力向上コーディネーター	全学年	学年ごとに「家庭学習のすすめ（児童向け）」と家庭学習カードを配付し、家庭と学校と両方でチェックしながら学習の記録、振り返りを行う。	6・10・1月		
3							

令和5年度 学力向上計画・報告書

大泉町立南中学校

(進捗状況の報告)

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	カリキュラムマネジメントの方針実践	教務 学力向上	全学年	・向上させたい教科横断的な資質・能力の設定、実践計画の提案。 ・学力向上プランの作成、伝達。	年度初		
2		研修主任	全学年	・研修の基本方針の原案作成。 ・基本方針の検討と決定、指導計画の作成、実践と振り返り、成果と課題のまとめ。	年度初		
3		教科担当	全学年	・単元の目当ての明確化、年間指導計画に沿った授業実践と修正。 ・授業実践と振り返り、成果と課題のまとめ。	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の徹底	生徒指導主事	全学年	・目指す生徒像と指導の重点の確認、教材や指導方法の共有と改善。 ・「南中けじめある学校生活」の掲示と実践、学習環境の整備。	年度当初		
2	補習体制の確立	教科部会 学年主任	全学年	・学年の実態に応じた補充学習の計画と実践。 ・No 清掃Dayを活用した補習、長期休業の補習。 ・基礎、基本の定着を目指した既習内容(前学年～)の復習。	通年		
3	日本語学級の充実	日本語教育	全学年	・日本語指導計画の作成、実践と振り返り、改善。 ・個に応じた課題の設定、学習のつまずきへの補助。	年度初 通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	校内研修の充実	研修主任		・自己の授業における課題の明確化。 ・一人一実践を中心とした実践・授業改善・授業参観。			
2	管理職等の日常的な指導・助言	授業改善部会		・管理職による授業参観。 ・教材研究、授業参観、指導方法の学び合い、研究授業 等。			
3	知識・技能を伸ばす授業の充実			・全国学力学習状況調査、学力検査等の過去問題の紹介と活用。 ・生徒の実態把握と情報交換、実践例の紹介。			
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	・検査結果の分析	・教科担当	全学年	・落ち込んでいる単元・学習内容の洗い出しと把握。	1学期		
2	・指導方法の改善	・教科担当	全学年	・分析をもとに教科部会での共通理解、補充問題を精選。 ・単元の系統性を生かした指導の改善、補習・補充の計画。	1学期以降		
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	自主学習の提案	学年主任 担任	全学年	・学校通信、学年通信、学級通信による家庭学習の啓発。 ・実態、実践の紹介、家庭への協力依頼。	年度初 通年		
2	生活面での実態把握と提案	学力向上 学年主任	全学年	・各学年の実態に合わせた計画の提案、取り組み状況の把握。 ・毎月の生活アンケート実施。 ・全国学力学習状況調査の結果より生活面での改善の提案。	年度初 1学期		
3	ICTの活用	教科担当 養護教諭 担任	通年	・課題の設定、配信。スタディサブリの活用。授業配信。 ・健康観察。 ・欠席者への授業連絡。部活動や学年での連絡。	通年		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

令和5年度 学力向上計画・報告書

大泉町立北中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実								
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て		重点時期
1	確かな学力を育成する授業の構築	学力向上コーディネータ 教科担当	全学年	○学校評価や学力調査、学習に関するアンケートの結果を分析し、本時のねらい・めあての提示、振り返りの時間を意識した授業実践を行う。	2学期			
2	指導計画の作成と修正	研修主任	全学年	○1年間の授業の成果や課題をもとに、年間指導計画の作成や見直しを行う。	年度末			
取組Ⅱ 指導体制の工夫								
1	ティームティーチング授業の時間の確保	教務主任	全学年	○特別な支援を必要とする生徒や日本語学級の生徒を中心としてT2が支援する。				
2	補習体制の確立	学年主任 学力向上コーディネーター	全学年	○テスト前後の部活動のない月曜日、また長期休業中に補習を行い、それぞれの生徒の習熟度に応じた学習に取り組ませる。	テスト前後			
3								
取組Ⅲ 指導力の向上								
1	1人1授業参観	研修主任	全学年	○教科の枠を越えて授業を参観し、授業の進め方や発問の仕方を学び合ったり、ICTの効果的な活用事例を学校全体で共有したりする。	2学期			
2	資質向上研修の充実	研修主任	全学年	○アンケート結果をもとに研修の内容を考え、計画以外にも必要性が出てきた内容については、随時研修を企画・開催する。	2学期			
3	教科部会での情報交換	研修主任	全学年	○教科部会で授業の進め方やICTの活用方法などについての情報交換の場を設定し、情報を共有する。	1学期			
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用								
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。	夏休み			
2								
取組Ⅴ 家庭・地域との連携								
1	家庭学習の充実	学年主任 学力向上コーディネーター	全学年	○学年通信や学習のあゆみを通して、学年の実態や頑張りについて情報提供するとともに、家庭での協力を依頼する。また、自主学習の効果的な取り組み方についても紹介する。	テスト前後			
2	スタディーサブリの活用	教科担当 学力向上コーディネーター	全学年	○予習や復習に活用できる内容を厳選して宿題を配信し、取り組み状況を家庭に周知する。	夏休み			
3								

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

令和5年度 学力向上計画・報告書

大泉町立西中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	基礎学力の定着	学力向上コーディネーター	全学年	○教科部会ごとに基礎・基本の学力の確実な定着を図るための指導の工夫を話し合い、実践する。	年間		
2	補習の実施	学力向上コーディネーター	全学年	○定期テスト前後や長期休業中に補習を行い、学力低位層の底上げを図る。	長期休業中 テスト前後		
3	朝学習の実施	学年主任	全学年	○定期テスト前に実施し、生徒の主体的な学習への取り組みにつなげる。	テスト前		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	外国籍生徒への支援	担当支援員	全学年	○日本語学級に通級している生徒への個別支援を行う。その際、支援に入れる教員を割り当て、必要な支援を講じていく。	年間		
2	習熟度別学習の実施	教科担当	全学年	○生徒のつまづきを把握し、習熟度・理解度に応じた問題解決的な学習を導入することで、学ぶ意欲の向上を図る。	年間		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	ICTの活用と工夫	情報主任	全職員	○ICTの効果的な活用に関する知識・スキルの習得に向けた研修、情報交換、授業実践を行う。また、ICT活用実践例の加除・検証を行う。	年間		
2	一人一授業の実施	研修主任	全職員	○「はばたく群馬の指導プランII」に沿った授業を構想し、授業公開を行う。その後、教科部会等で成果と課題について話し合い、分析する。	2学期		
3	管理職による日常的指導・助言	校長 教頭	全職員	○連絡・相談・報告を密に行い、管理職による指導、助言によって全教職員で意識するマネジメントの共通理解を徹底することで、適切・迅速・慎重な初期対応と事後対応につなげる。	適宜		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握し、指導形態の検討及び重点単元計画の作成に生かす。	夏休み		
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	教科担当 研修主任	全学年	○全国学力・学習状況調査の分析結果や学校評価より、新年度に向けた指導体制の見直し・改善に役立てる。	3学期		
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	三者面談の実施	担任 学年主任	全学年	○三者面談で学校の様子や家庭での様子について話し合い、生活習慣の改善や意欲的な学習への取り組みにつなげていく。また、保護者と情報共有し、学校と家庭との信頼関係を構築する。	5月 11月		
2	朝読書の充実	図書主任 国語部	全学年	○朝10分間の読書を行い、読書力の向上や毎日、落ち着いた学校生活をスタートできるようにする。	毎週		
3	家庭学習の啓発	担任 学年主任	全学年	○定期的・計画的な課題を設定し、自主学習ノートを実践する。その際、学校通信・学年(学級)通信などを発行したり、教室掲示を工夫したりすることで、自主学習の啓発や賞賛を行う。	年間		

令和5年度 学力向上計画・報告書

邑楽町立中野小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取り組み	担当当事者	学年等	具体的な内容	重点時期	中期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	生活科・総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムマネジメント	教務主任	全学年	○児童に主体性をもたせ、深い学びを実現するために、「教科横断的な学習」「PDC Aサイクルの確立」「地域と連携した体験型学習」を積極的に取り入れていく。成果と課題を次年度に引き継ぐため、効果的であった取組を単元配列表へ記入する。	通年		通年
2	朝学習の実施	学力向上コーディネーター	全学年	○月曜日は国語(αドリル)、火曜日は算数(寺子屋プリント)、水曜日は読書(月1で読み聞かせ)と全校で取り組む。	通年		通年
3	基礎基本テストの実施・分析	学力向上コーディネーター	全学年	○長期休業中に漢字と計算の復習に取り組ませ、既習事項の定着を図る。結果を分析して指導の改善に生かすと共に、9割以上得点した児童には賞状を配付して学習への意欲を高める。	各学期はじめ		各学期はじめ
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担任制の実施	教務主任	全学年	○教員の専門性を生かした教科担任制を実施することで、より質の高い授業を実践する。	通年		通年
2	学習規律の徹底	学力向上コーディネーター	全学年	○学習ルール(号令・学習用具・ノートの書き方・話の聞き方・発表の仕方等)をどの教科でも共通して指導し、児童が学習に集中できる環境を作る。	通年		通年
3	補習体制の確立	教務主任	全学年	○学校指導助手や支援員を効果的に配置し、少人数指導やT T指導、個に応じた指導等を実施する。	通年		通年
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	「中野小学学習スタイル」による授業実践	校内研修主任	全学年	○「めあてを引き出し、対話を深め、児童の言葉でまとめ、成長に気づく振り返りをする」中野小学学習スタイルを日々の授業に取り入れ、「チェックリスト」で自分の授業の振り返りをする。	通年		通年
2	一人一授業の実践	校内研修主任	全学年	○授業者は、指導案や板書計画を作成し公開することで授業力を高める。参観者は、「参観用ちこっとメモ」を用いて、良い点を授業者へ伝えるとともに、授業者から学んだ点を自分の実践に生かせるようにする。	通年		通年
3	資質向上研修の充実	資質向上研修主任	全学年	○ICTの効果的な活用の仕方など、教員のニーズに合った研修内容を扱うと共に、校内の教員の先駆的な実践の発表や、先輩教員の指導技術の引き継ぎを行う場とする。	通年		
4	メンター研修の充実	メンター主任	全学年	○若手教員同士がメンティーの悩みや課題について考え合い、助言し合う。	通年		通年
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題読解	学力向上コーディネーター	全学年	○令和5年度の全国学力・学習状況調査の問題を実際に解いてみることで、今求められている学力の傾向について知り、日々の授業で意識して指導できるようにする。	夏休み		夏休み
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○全職員で全国学力・学習状況調査の結果を分析し、各学年で付けるべき力を確認する。また、県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童がつまづきやすいポイントを捉え、授業改善につなげる。	夏休み		夏休み
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	地域人材・資源の活用	学年主任	全学年	○生活科や総合的な学習の時間等において、地域人材と連携した授業や、地域の資源を活用した授業を計画・実践する。	通年		通年
2	家庭学習の充実	学力向上コーディネーター	全学年	○家庭学習の手引きの配付や、学期毎に家庭学習の時間を記入させて振り返るチャレンジウィークを実施し、家庭学習への継続的な指導を行う。また、模範的な自主学習を掲示して紹介する。	通年		通年
3	生活習慣の改善	学力向上コーディネーター	全学年	○チャレンジウィークと併せてノーゲームデイについても声かけを行い、望ましい生活習慣について親子で考える機会とする。	各学期に一回		各学期に一回

令和5年度 学力向上計画・報告書

邑楽町立高島小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	カリキュラムマネジメントを意識した授業実践	学力向上コーディネーター	全学年	○各教科等の年間指導計画を教科横断的な視点で随時見直し、教育課程の改善とカリキュラムマネジメントを意識した授業実践につなげる。	通年		
2	学級活動の充実	特活主任	全学年	○学級活動(1)領域の話し合い活動を充実し、児童の思いや願いの実現につなげ、安心・安全な学級の雰囲気醸成する。 ○第1回学校評価アンケート結果で取組状況を把握し、改善につなげる。	年度当初		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の共通理解と共通実践	全職員	全学年	○「高島小学習スタイル」「高島小よい子の1日」を全校で共有し、学習に取り組みやすい環境を整える。 ○学期末のアンケートや教師の見取りから、成果と課題を検証し、改善につなげる。	年度当初		
2	チームティーチング・少人数授業の実践	教務	全学年(高学年)	○各学年の特性に合わせた支援体制を整え、児童一人ひとりに目を配るきめ細かな支援を実施する。 ○高学年の算数科においてクラスを二つに分けるなど、児童の実態に応じた、よりきめ細かな支援を実施する。	通年		
3	教科担任制の実施	教務主任	全学年	○社会、算数、理科、音楽、図画工作、体育、外国語の授業では、教科担任制による指導を実施し、各教科の特性を踏まえたきめ細かな支援につなげる。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	授業の展開の見直しと「高島小スタイルの確立」	学力向上コーディネーター	全学年	○「高島小授業チェックリスト」をもとに、一人ひとりが授業改善に取り組む。	通年		
2	一人一授業の実施と管理職の授業巡回	研修主任	全学年	○授業者は校内研修主題に沿った授業を実施するとともに、参観者は「高島小授業チェックリスト」や「授業参観シート」を用いて参観し、授業者に助言や感想を伝え、互いの授業力向上につなげる。 ○管理職は授業巡回を実施し、助言を行い、授業者は助言を踏まえ、授業改善に取り組む。	通年		
3	資質向上研修・メンター研修	各担当教諭	全職員(若手教員)	○全教員の知識や技能を共有し、個々の資質向上を図る。 ○若手教員の日々の悩みを共有するとともに、メンティーから助言や情報提供を行う。	通年		
1	全国学力・学習状況調査の結果分析	学力向上コーディネーター	全職員	○全教員で分担して調査問題を解いたり、結果分析を行ったりし、授業改善の視点を協議し、共通理解を図り、授業改善につなげる。	夏休み		
2							
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	読書時間の確保	図書主任	全学年	○毎月の「家庭学習がんばり週間」に読書の時間も設定し、家庭での読書時間の確保につなげる。 ○第1回学校評価で取組状況を把握し、改善策等を検討する。	毎月第3週		
2	家庭学習時間の確保	学力向上コーディネーター	全学年	○「家庭学習がんばり週間」を毎月実施し、学年ごとに設定された学習取組時間を目安に、学習時間が確保できるよう支援を行う。 ○メディア利用の限度時間を助言し、学習時間の確保につなげる。	毎月第3週		
3	ICTの活用	教務主任	全学年	○「学習クラウドドリル」を活用し、授業の予習や復習を充実する。 ○特別研修員の授業を参観し、ICT活用を含む指導力向上を目指す。	通年		

令和5年度 学力向上計画・報告書

邑楽町立長柄小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取り組み	担当当事者	学年等	具体的な内容	重点時期	中期訪問時の状況と今後の手立て	
1	総合的な学習の時間の年間計画の見直し・実施	総合的な学習の時間主任	3～6年	○昨年度見直した年間計画に基づいて実施し、総合を核とした改善・充実に努める。	年間通して		
2							
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	T.Tの実施	教務主任	全学年	○学年の実態に応じて補助の教員を配置し、きめ細やかに指導が行えるようにする。	年間		
2	授業の持ち合い	教務主任	3～6年	○教員の専門性を生かした授業の持ち合いを実施することで、より質の高い授業を実施する。	年間		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	一人一授業の実施	研修主任	全教師	○単元構想を工夫しながら、研修主題に迫る授業実践を行い、学年ブロックごとに授業を見合い、授業改善に向けた助言をしよう。	2学期以降		
2	管理職による授業参観	管理職	全教師	○日頃から管理職が授業参観を行い、指導、助言、授業改善を行っていく。	年間通して		
3	メンター研修	中堅教諭	若手教員	○日頃の授業の悩み、実践の工夫等を情報交換し、共有し合う。	年間通して		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全職員	○本校の傾向をつかみ、課題を全職員で話し合い、今後の授業改善の方向性を確認する。	夏休み		
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全職員	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、授業改善のポイントを検討する。	夏休み		
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	家庭学習期間の設定	学力向上コーディネーター	全学年	○学期末のテストが多くなる時期に家庭学習期間を設定し、家庭と連携して、家庭学習の習慣をつけられるようにする。	各学期の末ごろ		
2							
3							

令和5年度 学力向上計画・報告書

昌楽町立中野東小学校

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	「習得」「定着」「探究」のサイクルが確立した授業の実地	教科部会	全学年	○単元や題材などのまとまりを考えた指導計画を元に、児童が見通しをもてるような授業のめあてを提示し、何をどのように学んだのか自分で振り返る時間を確保する。また、めあて、まとめ、ふり返りを表す記号を全校で統一し、児童に毎時間使うものだという意識をつける。	通年		
2	朝の時間の有効活用	学力向上 コーディネーター	全学年	○登校後の時間を活用し、読書の推進や補充学習を行い、1時間目の授業に落ち着いて取り組めるようにする。	通年		
3	学校独自の基礎基本テストの実施、結果分析	学力向上 コーディネーター	全学年	○長期休みの課題を利用した復習サイクルを作り、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。また、テスト実施後は結果を分析し、指導の改善に生かす。	学期始め		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	ローテーション道徳の実施	教務主任	全学年	○学年の教員で道徳の授業を分担し、ローテーションでの授業を実施することで、教材研究をじっくり行い、児童が授業での学びを深められるようにする。また、複数の教員で授業を行うことにより、学年全体の児童の様子をより理解できるようにする。	通年		
2	交換授業・教科担当制指導の実施	教務主任	全学年	○教科担当制を実施することにより、専門性を生かした系統立てた指導を行い、知識・技能の定着や思考力の育成を図る。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	授業実践における自己評価の実施	学力向上 コーディネーター	全学年	○学期の終わりに「授業改善自己評価」のアンケートを実施し、指導方法を振り返ることで授業改善に生かす。	学期 終わり		
2	資質向上研修の充実	研修主任 メンター研修	全学年	○教師の指導技術の基礎研修として、様々な研修を取り入れていく。また、本校の教師を講師として、教師同士が学び合う機会を増やしていく。	通年		
3	一人一授業の実践と授業改善	研修主任	全学年	○お互いの授業を見合うことで、授業力の向上を目指す。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上 コーディネーター	全学年	○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析する。特につまずきやすい問題から、各学年で身に付けるべき力や関連する単元、学習方法を確認し、授業改善につなげる。	夏休み		
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上 コーディネーター	全学年	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析の資料の活用や、解説動画を視聴することで、児童のつまずきやすい学習内容を捉え、授業改善につなげる。	夏休み		
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	家庭学習・家庭読書の充実	学力向上 コーディネーター	全学年	○家庭での学習時間・読書時間を「学びの足あと」に記録し、家庭学習の習慣化を図る。また、懇談会や通信等で調査結果を家庭に伝え、協力を仰ぐ。	学期に 1回		
2	生活習慣の改善	学力向上 コーディネーター	全学年	○「学びの足あと」にテレビ・ゲーム・ネット時間や睡眠時間なども記録する。また、調査結果を家庭に伝え、改善策を共に考える。	学期に 1回		

(行は適宜、縦ぎ足したり、削除したりしてください)

令和5年度 学力向上計画・報告書

邑楽町立邑楽中学校

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	学力向上計画の立案、実施、進捗調整、見直し	学力向上C	全学年	前年度の課題等を踏まえて学力向上計画を立案、実施する。様々な様子を見ながら、調整、見直しを適宜行う。	4月		重点時期
2	校内研修と連動した授業改善の推進	研修推進委員	全学年	研修推進委員会で話し合われた内容を各学年に伝え、研修テーマに即して授業改善を行う。	随時		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の構築	学力向上C	全学年	授業で使用するめあてや振り返りの札の統一や背面黒板の書き方等を全職員で確認し、学習規律の構築を図る。	4月		
2	ICT機器活用事例の共有	情報主任	全学年	教員同士がICT機器活用の実践例を共有していく機会を設ける。	随時		
3	輪番制の学級会の実施	特別活動主任	全学年	全学年で輪番制による学級会を行い、生徒の主体性や自治できる力を育む。	随時		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	教科部会の活性化	研修主任 各教科主任	全学年	校内研修の時間や空き時間に教科部会を設定し、教科部会の活性化を図る。	随時		
2	資質向上研修を通じた情報発信、共有	研修主任	全学年	各教員の知識の教育技術を生かした資質向上研修を設定し、全職員に発信、共有していく。	随時		
3							
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	研修主任 学力向上C	全学年	実施学年の教職員だけでなく、全職員が全国学力・学習状況調査の問題に触れ、結果をもとに分析を行う。	9月		
2	全国学力・学習状況調査の過去問の実施	研修主任 学力向上C	3学年	全国学力・学習状況調査の過去問に各教科の授業で取り組み、問題の傾向をつかませる。	4月		
3							
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	DailyLifeを活用したよりよい生活習慣づくり	学力向上C	全学年	全学年共通のDailyLifeを使用し、見通しと振り返りを大切にした生活習慣作りを行う。	随時		
2	授業参観、学校公開の実施	教頭 教務主任	全学年	各学期に授業参観、学校公開を実施し、保護者や地域の方に開かれた学校を目指す。	各学期		
3							

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

令和5年度 学力向上計画・報告書

邑楽町立邑楽南中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	朝学習の実施	学力向上コーディネーター	全学年	タブレット端末やプリントを用いて、教科や単元を各自で選び、一人一人の実態に応じた学習に取り組む。	毎週 月・水・金		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習支援	学年主任	全学年	数学や英語を中心に、苦手な生徒のサポートができるように、ICTを用いた授業を展開したり、定期的に教科部会を開き、つまづきやすい問題について話し合ったり、その生徒に必要な支援を考える。	通年		
2	補習の充実	学力向上コーディネーター	全学年	定期テスト前の放課後、各学年の生徒の実態に応じて各教科の質問や自らの課題を見つけるために補習を行う。	定期テスト前		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	ICT機器の活用と工夫	情報主任	全学年	ICT機器の使い方の研修を段階的に行っていく。また、ICT機器を使った授業実践を報告し合い、よりよい活用の仕方を共有していく。	2学期		
2	一人一授業の実施	研修主任	全学年	一人一授業を公開し、実践後に教科部会で話し合い、成果と課題について分析する。	2学期		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	今求められる学力の理解	各教科の担当職員	全学年	令和5年度の全国学力・学習状況調査の問題を解き、今求められている学力や、それを身に付けさせるための授業の工夫について話し合う。	夏休み中		
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	県教委や町教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。	2学期		
3	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	2学期		
取組Ⅴ 家庭・地域との連携							
1	授業参観、学校公開の実施	担任 学年主任	全学年	授業参観や学校公開で生徒の様子を見てもらい、家庭で学校での様子について話し合う機会ができるようにする。	1学期、2学期		
2	三者面談の実施	担任 学年主任	全学年	三者面談で学校や家庭の様子について保護者と情報交換を行い、よりよい生活習慣や学習への取り組みについて話し合うことで進路決定に繋げていけるようにする。	5月、11月		
3	地域人材の活用	総合的な学習の時間主任	全学年	職業体験や総合的な学習において、テーマに適した地域の方を講師として招いたり、長柄小学校の生徒と繋がったりすることで、体験をもとにした専門的な内容を学ぶ機会を設ける。	2学期		
4	家庭学習の充実	各教科の担当職員	全学年	タブレット端末を家庭で有効活用できるように、家庭学習として短時間でできるe-ライブラリの課題を出題する。	毎日		